

"rational singularity" の cyclic covering について  
(標数  $p > 0$  の場合)

東海大・理 渡辺敬一

序

標数 0 の代数多様体の特異点の理論について、 rational singularity の概念から始まり、 terminal, canonical, elliptic, log-terminal, log-canonical 等々多くの特異点の概念が定義されてゐる。一方、標数  $p > 0$  の環に対しては、 Frobenius 写像と、これによつて定義される ideal の tight closure の概念を用いて、 F-regular, F-rational, F-pure 等の概念が定義されてゐる。

本稿の目的の一つは、 F-regular (正確には strongly F-regular), F-pure ring の finite cyclic cover に対する挙動を調べることである。 integral divisor に関する cyclic cover に対して、 F-regular, F-pure となる性質が保たれることは [9] で見てみる  $\mathbb{Z}^2$ , 一般の (fractional divisor に対する) cyclic cover のときは、「分數部分」  $D'$  は  $\mathbb{Z}$  で、  $\mathbb{Z}$  cyclic cover が F-regular (F-pure) になら

るか否かが記述される。この事実は、丁度標数0の "log-terminal" (又は log-canonical) pair の拳動と一致する。

一方、2次元の F-regular ring, normal F-pure ring を分類すると、前者は "quotient singularity", 後者は、前者に simple elliptic singularity と cusp singularity 及び cyclic covering として  $\rightarrow$  rational singularity  $E_{\text{DD}}$  が  $\cong$  である。これらは log-terminal, log-canonical singularity と一致する。この付録は、F-regular と log-terminal, F-pure と log-canonical が「同値」である事を期待されるが、本稿では、

「標数0の特異点」、無限個の素数  $p$  に対して、その標数  $p$  の reduction が F-regular (resp. F-pure) なら、log-terminal (resp. log-canonical) である。」を canonical class が有限 ( $\mathbb{Q}$ -Gorenstein) の場合に示す。

逆に、log-terminal (resp. log-canonical) singularity は、無限個の素数  $p$  について reduction mod.  $p$  が F-regular (resp. F-pure) になるか? という問いは未解決だが、標数0の特異点の性質の判定には標数  $p > 0$  の概念が使われる。これは意味深一歩と思われる。

## § 1. Preliminaries.

$R$  は標数  $p > 0$  の環とする。以下  $R$  は reduced と仮定し、 $R^0 := R \setminus \{g \mid g \text{ は } R \text{ の minimal prime}\}$  とする。

$F: R \rightarrow R$  を Frobenius map,  $F(a) = a^p$  とし、  
 $F$  と  $R \hookrightarrow R^{1/p}$  を同一視する。本稿に於ては、条件

$F$  は finite map

を満たすとする。(つまり、 $R$  は体  $k$  上 ess. of fin. type,  $k$  が perfect field 上に有限生成。又  $R$  は complete local, 剰余体  $k$  は上の条件を満足する。)

定義 (1.1). (1) (Hochster - Roberts, [4])  $R$  が  
 $F$ -pure  $\Leftrightarrow R \hookrightarrow R^{1/p}$  が  $R$ -module として split.

(2) (Hochster - Huneke, [3, 2])  $R$  が strongly  
 $F$ -regular  $\Leftrightarrow \forall c \in R^0, \exists q = p^e, R \hookrightarrow R^{1/q}, 1 \mapsto c^{1/q}$   
 $\Rightarrow$  split as  $R$ -module.

注. "F-regular" という用語には、まだ研究が始ま  
て日本語でいうところもあり、他に "weakly --", 単に "F-regular" 等の言葉が使われることもある。R が Gorenstein  
のときには、上記の 3 つは一致する。(cf. [3])

$(R, \mathfrak{m})$  が local ring のとき、 $R/\mathfrak{m}$  の injective envelope  
 $E := E_R(R/\mathfrak{m})$  によると  $F$ -pure,  $F$ -regular の判定がある。

Lemma (1.2).  $(R, \mathfrak{m})$  : local,  $E = E_R(R/\mathfrak{m})$  のとき.

(1)  $R$  が  $F$ -pure  $\Leftrightarrow F \otimes 1 : E = E \otimes_R R \rightarrow E \otimes_R R^{1/p}$   
が injective.

(2)  $R$  が strongly  $F$ -regular  $\Leftrightarrow \forall c \in R^0, \exists q = p^e,$   
 $c^{1/q}, F^e(z) \neq 0$  in  $F^e(E) := R^{1/q} \otimes_R E$ , すな  
て  $z \in E$  は  $Soc_R(E) = [0:\mathfrak{m}]_E$  の生成元.

(証明) (1) は [4], (2) は  $R \xrightarrow{f} R^{1/q}, 1 \mapsto c^{1/q}$   
が split  $\Leftrightarrow f \otimes 1 : E \rightarrow R^{1/q} \otimes_R E$  が split  $\Leftrightarrow f \otimes 1$  が injective  
 $\Leftrightarrow c^{1/q}, F^e(z) = (f \otimes 1)(z) \neq 0$  ([9], (1.2)).

[9] (1.4) では (2) の条件を "weakly  $F$ -regular" と  
同値として  $t = 0$ , 上で示したように, "strongly  $F$ -regular" と  
同値である。(両者の区別が何が  $F$  と  $-F$  の関係にあること)。

$(R, \mathfrak{m})$  : normal local な, canonical module  $K_R$   
をもつとき,  $E_R(R/\mathfrak{m}) \cong H_m^d(K_R)$  である ( $d = \dim R$ ). す  
のとき,  $H_m^d(K_R) \cong$  Frobenius 対象は

$$H_m^d(K_R) \xrightarrow{F^e} H_m^d(K_R) \otimes_R R^{1/q} \cong H_m^d((K_R^{(q)})^{1/q})$$

を得られる。すなはち,  $K_R = R(\mathcal{K}_R)$  が divisor であるとき,  
 $K_R^{(q)} = R(q\mathcal{K}_R)$  である。 $( )^{1/q}$  は  $R^{1/q}$  の商体であることを  
示す。([9], (2.5)). これを用いて次のことを示す。

命題 (1.3). ([9], 2.7)  $(R, \mathfrak{m}) \rightarrow (S, \mathfrak{n})$  が normal  
local rings の local hom な, codim. 1 が étale のとき,

$R$  が  $F$ -pure (resp. strongly  $F$ -regular)  $\Rightarrow S \in \mathbb{Z}$ .

以下において cyclic cover (又は normal  $\mathbb{Z}_r$ -graded ring) の概念が重要な役割を果すので、これに関する言葉を準備する。(詳しくは、[7] 参照。)

$S = \bigoplus_{i \in \mathbb{Z}_r} S_i$  を cyclic group  $\mathbb{Z}_r$  による grading をもつ normal 整域 とする。このとき、 $S_0 = R$  は normal  $\mathbb{Z}$ 、  
 $u \neq 0 \in S_1$  をとり、 $R$  の商体を  $K$ 、 $u^r = f$  とおくと、

$D := \frac{1}{r} \operatorname{div}_R(f)$  とおいて、 $S = \bigoplus_{i \in \mathbb{Z}_r} R(iD) \cdot u^i$  と書ける。但し、 $R(iD) = \{x \in K \mid \operatorname{div}_R(x) + iD \geq 0\}$  である記号の下で、 $S$  を

$S = S(R, D, f)$  と表す事にする; 一般には、 $D$  は  $\mathbb{Q}$ -係数の divisor  $\mathbb{Z}$ 、 $D = \sum \frac{p_v}{q_v} \cdot V$  ( $q_v, p_v = 1, q_v > 0$ ) と表すとき、 $D$  の分母部分を表す divisor を、

$$D' := \sum \frac{q_v - 1}{q_v} \cdot V \quad \text{と書くことにする。}$$

$R$  の canonical module を  $K_R$ 、 $\bar{E}_R \in \operatorname{Div}(R)$  を  $K_R = R(\bar{E}_R)$  とすると、

$$K_S \cong \bigoplus_{i \in \mathbb{Z}_r} R(\bar{E}_R + D' + iD) \cdot u^i,$$

特に、 $K_S$  が  $S$ -free  $\Leftrightarrow \exists i, \bar{E}_R + D' \sim iD$  (linearly equivalent) である事を注意しておこう。

## §2. Cyclic cover の F-regularity, F-purity.

$R$  を標数  $p > 0$  の体を含む Noetherian local normal ring,  $R \hookrightarrow R^{\frac{1}{p}}$  は finite とする。 $m$  を  $R$  の極大 ideal とする。  $S = S(R, D, f)$  を  $R$  の  $r$ -cyclic cover,  $p \nmid r$  とする。次の条件 (\*)

(\*)  $r = \min \{ i > 0 \mid iD \text{ は } R \text{ の principal divisor} \}$  を仮定すると,  $S$  は local ring である。

我々の目標は,  $S$  が F-pure (resp. strongly F-regular) になるための条件を  $(R, D)$  を用いて記述する事だ。結果として log-terminal, log-canonical singularity と同じ現象が現れる事に注意したい。

まず,  $D \in \text{Div}(R)$  (integral divisor) のときは,

(1.3)  $i = p^r$ ,

(2.1)  $S = S(R, D, f)$ ,  $D \in \text{Div}(R)$ ,  $p \nmid r$  のときは,  
 $S$  が F-pure (resp. strongly F-regular)  $\Leftrightarrow R$  が F-pure  
 (resp. strongly F-regular).

( $\Leftarrow$  は (1.3) だから,  $\Rightarrow$  は  $\mathfrak{m}$  の  $p^r$  次の pure subring 一特に直和因子一に適用する事より。[3], [4] 参照。)

問題は  $D$  が分母部分をもつ時だが, (1.2) の議論を用いて F-pure, strongly F-regular の条件を判定する,

$$K_S \cong \bigoplus_{i \in \mathbb{Z}_x} R(\bar{E}_R + D' + iD) \cdot u^i$$

ここで、次の事実が重要なである。(  $d := \dim R$  とする。)

Lemma (2.2).  $\text{Soc}_S(H_m^d(K_S)) = \text{Soc}_R(H_m^d(R(\bar{E}_R + D')))$   
 $= H_m^d(R(\bar{E}_R)) = H_m^d(K_R)$ . (RP5,  $K_S$  の socle は "degree 0" の部分に存在する。)

(証明)  $H_m^d(K_S) = \bigoplus_{i \in \mathbb{Z}_x} H_m^d(R(\bar{E}_R + D' + iD)) \cdot u^i$  が  $S$  上 injective module である事は既知である。 $\text{Soc}_S(H_m^d(K_S))$  は長さ 1 の  $S$ -module である。従って  $\text{Soc}_R(H_m^d(R(\bar{E}_R + D')))$  が  $S$  の maximal ideal  $m = \bigoplus_{i \in \mathbb{Z}_x, i \neq 0} R(iD) \cdot u^i \oplus m$  は  $\mathfrak{f}$  で零化される事を見れば良い。 $m$  の元をかけて  $0 = \alpha \beta \in m$  は  $\text{Soc}_R$  の元より  $\alpha \in m$  である。 $a \in R(iD)$  と  $\beta \neq 0 \in \text{Soc}_R(H_m^d(K_R))$  に対して、 $a\beta \in H_m^d(R(\bar{E}_R + D' + iD)) \cdot u^i$  を零せば良くなる。これは  $R(iD)$  の定義より、 $\text{div}_R(a) + iD \geq 0$  たゞ、 $\mathfrak{f}$  の最小性(条件 (\*)) より等号は成立しない。従って、 $a\beta \in H_m^d(R(\bar{E}_R - \text{div}_R(a)))$  はこの加群の socle の元である。したがって  $\text{Soc}_R(H_m^d(K_R)) \subset \text{Soc}_S(H_m^d(K_S))$  がわかる。

Sublemma.  $I, J \subset K \in R$  の divisorial ideal ( $R$ -reflexive または fractional ideal)  $I \subsetneq J$  とする。このとき  $I \hookrightarrow J$  から得られる射影  $H_m^d(I) \rightarrow H_m^d(J)$  は injection である。

[ 5 ] い. " pair  $(X, \Delta)$  が log-terminal (resp. log-canonical) という定義があるが, このの真似をしてみよう。

以下  $i = 0, 1, \dots, r$ ,  $p \neq v$  を假定する。

定義 (2.3).  $D' \in \text{Div}(R) \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{Q}$  を  $\sum \frac{g_v-1}{g_v} \cdot V$  の形のもととする。このとき,

(1)  $(R, D')$  が F-pure  $\Leftrightarrow H_m^d(R(\bar{K}_R + D')) = H_m^d(K_R)$   
 $\rightarrow H_m^d(R(p(\bar{K}_R + D'))) \rightarrow$  injection.

(2)  $(R, D')$  が F-regular  $\Leftrightarrow \forall c \in R, c \neq 0, \exists q = p^e$ .  
 $c \cdot F^e(\xi) \neq 0$  in  $H_m^d(R(q(\bar{K}_R + D')))$ .

すると, (2.3) と (2.2) より直ちに次が得られる。

定理 (2.4).  $S = S(R, D, f)$  のとき,

(1)  $S$  が F-pure  $\Leftrightarrow (R, D')$  が F-pure

(2)  $S$  が strongly F-regular  $\Leftrightarrow (R, D')$  が F-regular.

(証明)  $- \frac{1}{g_v} \in S$ -divisinal ideal  $I := \bigoplus_{i \in \mathbb{Z}_r} R(E+iD) \cup$   
 $(E \in \text{Div}(R) + \sum_V \frac{1}{g_v} \mathbb{Z} \cdot V \subset \text{Div}(R) \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{Q})$  は  $\mathbb{Z}$  の部分集合,

$$I^{(g)} = \bigoplus_{i \in \mathbb{Z}_r} R(q E + iD) \cup$$

$$K_S^{(g)} = \bigoplus_{i \in \mathbb{Z}_r} R(q(\bar{K}_R + D') + iD) \cup$$

より求めた結果を得る。

### § 3. F-regular (F-pure) ring

⇒ log-terminal (log-canonical) singularity.

これまで述べて来たように、F-regular ring と log-terminal singularity, F-pure ring と log-terminal singularity は本質的に同値な概念と考える。 $t=t^{-1}$ , 標数 0 の環と標数  $p > 0$  に reduction した時の Frobenius 対像の作用が良くわからぬ等、いざいざ難しき處はあるようにも思われる。ここでは、"標数 0 の特異点が無限個の  $p > 0$  の reduction で F-pure (resp. F-regular) または log-canonical (resp. log-terminal)" という事実の "Frobenius splitting" ([6] 参照) を用いた証明をしたいと思う。

まず、log-terminal (resp. log-canonical) singularity の定義を復習しよう。([5])

(3.1)  $(X, x)$  標数 0 の体  $K$  上定義された normal algebraic variety の特異点とし、

$f: Y \rightarrow X$  を resolution,  $E = \bigcup_{i=1}^n E_i \subset Y$  exceptional set,  $E$  は simple normal crossing と仮定する。(SNC と略す。) また,  $\exists r > 0$ ,  $\omega_X^{[rx]} = \mathcal{O}_X(rx\bar{\mathfrak{E}}_X)$  は invertible とする。 $(\bar{\mathfrak{E}}_X: X \rightarrow \text{canonical divisor})$ .

$$\bar{\mathfrak{E}}_Y = f^*(\bar{\mathfrak{E}}_X) + \sum_{i=1}^n a_i E_i$$

と書くとき,  $X$  が log-terminal (resp. log-canonical)

$\Leftrightarrow a_i > -1$  (resp.  $a_i \geq -1$ ) ( $i=1, \dots, n$ ).

定理. (3.2).  $(X, x)$  は (3.1) の通りとする。もし,  
 $\mathcal{O}_{X,x}$  の標数  $p \geq 0$  reduction が無限個の  $p > 0$  は強 F-pure (resp. strongly F-regular)  $\Rightarrow (X, x)$  は log-canonical (resp. log-terminal) singularity.

(証明) まず, (3.1) の  $X$  の resolution  $f: Y \rightarrow X$  を fix する。 $f, Y, X$  はすべて  $K$  上 of finite type  $T \in \mathbb{A}^n$ ,  $\exists A$ : 既上有限生成の ring  $\cong A \subset K$ ,  $\exists f_A: Y_A \rightarrow X_A$ , morphism of schemes of finite type over  $A$  s.t.

$f_A \otimes_A K: Y_A \otimes_A K \rightarrow X_A \otimes_A K$  が  $f$  と一致する。

条件 "Y, E が  $\text{Spec}(A)$  上 smooth" は open condition  $T \in \mathbb{A}^n$  (3.1) の条件をすべて備え、したがって、標数  $p > 0$  の体  $k(g)$  ( $g \in \text{Spec}(A)$ ) が存在する。EP5,

$f_A \otimes_A k(g): Y_A \otimes_A k(g) \rightarrow X_A \otimes_A k(g)$

は  $X$  の標数  $p > 0$  への reduction が resolution である。

従って我々は次の定理を示せば成る事になる。

定理 (3.3).  $f: Y \rightarrow \text{Spec}(R)$ ,  $(R, \mathfrak{m})$  は標数  $p > 0$  の local ring,  $f$  は resolution  $\tau$ ,  $f \circ$  exceptional

set  $E$  は simple normal crossing とする。また,  $R$  は quasi-Gorenstein ( $\omega_R$  が  $R$ -free) とする。このとき,  
 $(KR = R \text{ とき}) \quad \omega_Y \cong \mathcal{O}_Y(\sum a_i E_i)$  とするとき,  
 $R$  が  $F$ -pure (resp. strongly  $F$ -regular) ならば,  
 $\forall a_i \geq -1$  (resp.  $\geq 0$ ).

("log-terminal, log-canonical singularity" と,  
 $F$ -pure, (strongly)  $F$ -regular ring とみなす canonical  
cover と, ても保形  $E$  は  $\mathbb{Z}^n$  (pt cl( $K_Z$ ) の order が  $\mathbb{Z}$ ),  
 $K_R \cong R$  のときに帰着してよい。)

(証明)  $U = Y - E \cong \text{Spec}(R) - \text{Sing}(R)$  とおく。  
 まず、"R が  $F$ -pure" を仮定すると,  $\exists \varphi: R^{1/p} \rightarrow R$ ,  $R$ -  
 hom.  $\varphi \circ i = \text{id}_R$  ( $i: R \hookrightarrow R^{1/p}$ ). ここで  $\varphi$  は  $U$  上に制限する  
 ときに  $\varphi|_U: \mathcal{O}_U^{1/p} \rightarrow \mathcal{O}_U$  を引き起す。

さて, 一般に, "adjunction formula" は, 標数  $p$   
 の scheme  $X$  において,  $\text{Hom}_{\mathcal{O}_X}(\mathcal{O}_X^{1/p}, \omega_X) \cong (\omega_X)^{1/p}$   
 $((\omega_X)^{1/p} \text{ は } (X, \mathcal{O}_X^{1/p}) \text{ の dualizing module. })$ . 従って,  
 $\omega_X$  が invertible とすると,

$$\begin{aligned} \text{Hom}_{\mathcal{O}_X}(\mathcal{O}_X^{1/p}, \mathcal{O}_X) &\cong \text{Hom}_{\mathcal{O}_X}(\mathcal{O}_X^{1/p}, \omega_X) \oplus_{\mathcal{O}_X} (\omega_X)^{-1} \\ &\cong (\omega_X)^{1/p} \oplus_{\mathcal{O}_X} (\omega_X)^{-1} \cong (\omega_X^{\otimes(1-p)})^{1/p} \\ &= (\mathcal{O}_X((1-p)\mathfrak{K}_X))^{1/p}. \end{aligned}$$

従って,  $\varphi \in H^0(U, \text{Hom}_{\mathcal{O}_U}(\mathcal{O}_U^{1/p}, \mathcal{O}_U)) \cong H^0(U, \omega_U^{(1-p)\mathfrak{K}_U})$ .

我々は、 $\varphi$  を  $Y$  に延長する事を考える。

$H^0(U, \mathcal{O}_U) = H^0(Y, \mathcal{O}_Y) = R$  たゞし ( $\text{codim}(\text{Sing}(R)) \geq 2$ ),  
 $\forall b_i \geq 0$  のとき,  $H^0(Y, \mathcal{O}_Y(\sum b_i E_i)) \cong H^0(Y, \mathcal{O}_Y) = R$  と,  
 $H^0(Y, \mathcal{O}_Y(\sum b_i E_i)) = R$ 。  
 $H^0(Y, \mathcal{O}_Y((1-p)\tilde{\mathcal{E}}_Y)) = H^0(Y, \mathcal{O}_Y(\sum (1-p)a_i E_i)) = R$  と  
 $\forall a_i \leq 0$  のとき,  
 $H^0(Y, \mathcal{O}_Y(\sum (1-p)a_i E_i)) = H^0(U, \mathcal{O}_U(\sum (1-p)a_i E_i)) = R$  と  
 たゞ  $Y$ ,  $\varphi$  は  $Y$  に延長される。しかし、我々が示した結果では,  
 $\forall a_i \geq -1$  (resp.  $\geq 0$ ) たゞし,  $a_i > 0$  なる  $E_i$  に  $\varphi$  を  
 は考える必要がある。ゆえに,

$Y' := Y - \bigcup_{a_i > 0} E_i$   
 とおく。 $(1-p)\tilde{\mathcal{E}}_{Y'} \geq 0$  たゞし,  $H^0(Y', \mathcal{O}_{Y'}((1-p)\tilde{\mathcal{E}}_{Y'})) \cong H^0(U, \mathcal{O}_U) \cong R$ ,  $\varphi$  は  $\psi : \mathcal{O}_{Y'}^{1/p} \rightarrow \mathcal{O}_{Y'}^{1/p}$  に延長される。

次に、合成写像  $\varphi \circ \iota : \mathcal{O}_{Y'} \rightarrow \mathcal{O}_{Y'}^{1/p} \rightarrow \mathcal{O}_{Y'}$  を考える  
 と,  $\varphi \circ \iota \in H^0(Y', \mathcal{O}_{Y'}) \cong R \cong H^0(U, \mathcal{O}_U)$  たゞし,  $R$  の  
 元の multiplication と同一視され, また, その逆は  $U$  上の  
 作用で決定される。我々は  $R \hookrightarrow R^{1/p} \rightarrow \text{splitting } R^{1/p} \rightarrow R$   
 から出発したら,  $\varphi \circ \iota$  は  $R$  の unit である。従って, 合  
 成写像  $\varphi \circ \iota : \mathcal{O}_{Y'} \rightarrow \mathcal{O}_{Y'}$  は 全射 bijection でなければ  
 ならぬ。

さて, もし, ある  $a_i < -1$  とするとき,  $(1-p)a_i \geq p$  と  
 ある。もし  $x \in E_i \cap Y'$  にあって,  $E_i$  の定義方程式を  $f_i$

とおくと、 $x$  の  $\mathcal{O}_Y((1-p)\tilde{\mathcal{L}}_Y)$  の生成元を  $\tilde{\Psi}_0$  とす  
ると、 $\psi := \text{sheaf}( \tilde{\Psi} \in H^0(Y', \mathcal{O}_{Y'}((1-p)\tilde{\mathcal{L}}_{Y'})) )$  は  $x$  に含まれ  
て、 $\tilde{\Psi}_x \in f_i^*(\tilde{\Psi}_0)_x \cdot \mathcal{O}_{Y',x}$  をみた L, 従って,  $\psi_x \in f_i^*\psi_0 \cdot \mathcal{O}_{Y',x}$ .  
ゆえに,  $\psi \circ i: \mathcal{O}_{Y',x} \hookrightarrow (\mathcal{O}_{Y',x})^{1/p} \rightarrow \mathcal{O}_{Y',x}$  の image は  $f_i^*\mathcal{O}_{Y',x}$   
に含まれる,  $\psi \circ i$  が bijection である事は分かる。ゆえに,  
 $\forall a_i \geq -1$  の, F-pure  $\Rightarrow$  log-canonical が成り立つ。

また、 $\exists c \neq 0 \in R$ ,  $c \in I(\text{Sing}(R))$ ,  $\exists q = p^e$ ,  
 $R \rightarrow R^{1/q}$ ,  $1 \rightarrow c^{1/q}$  が split by  $\varphi: R^{1/q} \rightarrow R$  とすると,  
上述のように,  $\varphi|_U: \mathcal{O}_U^{1/q} \rightarrow \mathcal{O}_U$  と  $\psi: \mathcal{O}_{Y'}^{1/q} \rightarrow \mathcal{O}_{Y'}$  に對  
応しますとき,  $\exists a_i = -1$  とすると,  $x \in E_i \cap Y'$  に含まれて,  
 $\exists \psi_0: (\mathcal{O}_{Y',x})^{1/q} \rightarrow \mathcal{O}_{Y',x}$ ,  $c \cdot \psi \in f_i^* \psi_0 \cdot \mathcal{O}_{Y',x}$  ( $f_i^*(c) \in \mathcal{O}_Y(-E)$   
より). 従って,  $\mathcal{O}_{Y',x} \xrightarrow{\cong} (\mathcal{O}_{Y',x})^{1/q} \xrightarrow{\psi} \mathcal{O}_{Y',x}$  の像が  $f_i^*\mathcal{O}_{Y',x}$   
に含まれる事になり,  $\psi$  が各々で splitting を与える事に反す  
る。従って,  $\forall a_i > -1$ ,  $R$  は log-terminal が成り立つ。  
特に,  $R$  が strongly F-regular ならば, 上の条件のみ  
たされ,  $\forall a_i > -1$  が成り立つ。

追記: このパートは、本シンポジウムにおける油-演説  
の講義の “char. = p > 0” の部分をまとめたもので、前半の  
“複数 0” の部分は油氏のパートを参照して下さい。

## R E F E R E N C E S

- [1] R. Fedder and K.-i. Watanabe, A characterization of F-regularity in terms of F-purity, in "Commutative Algebra", Proc. Microprogram, MSRI Publ. 15, 227-245, Springer, 1989.
- [2] M. Hochster and C. Huneke, Tight closure, Invariant theory, and the Briancon-Skoda Theorem, J. of Amer. Math. Soc. 3 (1990), 31-116.
- [3] M. Hochster and C. Huneke, Tight closure and strong F-regularity, Mem. Soc. Math. France, 38 (1989), 119-133.
- [4] M. Hochster and J. L. Roberts, The purity of the Frobenius and local cohomology, Adv. in Math. 21 (1976), 115-175.
- [5] Y. Kawamata, K. Matsuda and K. Matsuki, Introduction to minimal model problem, Alg. Geom. Sendai (T. Oda ed.), Adv. studies in Pure Math. 10, Kinokuniya-North Holland (1987), 283-360.
- [6] V.B. Mehta and A. Ramanathan, Frobenius splitting and cohomology vanishing for Schubert varieties, Ann. of Math. 122 (1985), 27-40.
- [7] M. Tomari and K.-i. Watanabe, Normal  $\mathbb{Z}$ -graded rings and normal cyclic covers. (Normal cyclic covers, I), to appear in Manuscripta Math.
- [8] K.-i. Watanabe, Study of F-purity in dimension two, in "Algebraic Geometry and Commutative Algebra: in honor of Masayoshi Nagata", vol. II, Kinokuniya, Tokyo, 1988, 791-800.
- [9] K.-i. Watanabe, F-regular and F-pure normal graded rings. J. of Pure and Appl. Alg. 71 (1991), 341-350.